

繰越を必要とする理由書

様式C-26
作成・確認のポイント

機関番号： 12345 研究機関名： ××××大学 研究代表者名： 科研 花子
 課題番号： 26123456 平成26年度補助金交付額： 13,000,000 円 (内訳:直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円)
 繰越(翌債)承認要求額： 2,600,000 円 (内訳:直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円)
 ※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費(H26)： 円 (内訳:直接経費 円・間接経費 円)】

研究種目： 基盤研究(A) 研究課題名： ○○に関する研究

研究期間 26年度～29年度

左の<当初計画>に記入した内容・時期を記入。

翌年度計画と繰越承認要求額に大きな乖離はないか確認。

間接経費は、原則、直接経費の30%相当額ですが、全額執行済みや執行予定が決まっている場合は、30%相当額未満でも構いません。(※ 研究機関の事務担当者に確認してください。)

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画>	<変更後の計画>	(研究概要)
H26.4 事前準備	H26.4 事前準備	※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年8月までに、 △△評価実験及び▲▲解析を行い、 平成27年3月までに、 解析結果に基づき、■■を開発、評価の上、成果を取りまとめる 予定であった。
H26.5 ↓	H26.5 ↓	
H26.6 △△評価実験	H26.6 △△評価実験	
H26.7 ↓	H26.7 ↓	
H26.8 ▲▲解析	H26.8 ▲▲解析	
H26.9 ■■の開発	H26.9 △△評価実験の追加実施	
H26.10 ↓	H26.10 ↓	
H26.11 ↓	H26.11 ▲▲解析(追加実施分)	
H26.12 ↓	H26.12 再実験結果の評価	
H27.1 ↓	H27.1 ■■の開発	
H27.2 ■■の評価	H27.2 ↓	
H27.3 研究成果とりまとめ	H27.3 ↓	
	H27.4 ↓	事由 記号等 ⑦イ 研究方式の決定の困難 (補足説明) 平成26年9月、△△評価実験、及び▲▲解析の結果、□□条件に予期しなかったばらつきが見られたため、予定よりもより多くの試料について、詳細な評価を実施する必要が生じた。
	H27.5 ↓	
	H27.6 ■■の評価	
	H27.7 研究成果とりまとめ	
	H27.8 ↓	
	H27.9 ↓	
	H27.10 ↓	
	H27.11 ↓	
	H27.12 ↓	
	H28.1 ↓	
	H28.2 ↓	
	H28.3 ↓	
繰越事由の発生した時期	補助事業の完了時期	
平成26年9月	平成27年7月末(4ヶ月延長)	

一致しているか確認。

原則、一致しているか確認。

+4ヶ月

完了時期と一致。

平成27年度継続課題については、平成26年度計画を平成27年度後半まで繰越して延期する場合、平成27年度の当初計画の補助事業が十分に遂行できるか検証してください。

繰越事由一覧を参照の上、「繰越事由(記号等)」を選択してください。

<記入上の留意事項>
 ○ファイルの書式(行数、列数、幅等)、ファイルの形式は一切変更しないでください。
 ○フォントは「MS明朝」を使用してください。
 ○アルファベット、数字、記号は、「半角」で入力してください。
 ○元号は、「H」を用いず、「平成」としてください。(当初計画及び変更後の計画欄を除く。)

<重要>
 枠の4ヶ月間が繰越事由に該当。それに要する期間のみ延長可能。(繰越事由が発生した期間の前後の月は、原則として計画の内容・期間の変更ができません。)
 (補足説明)欄では、繰越事由が生じた理由、期間延長の妥当性、計画の変更点について、明確な説明が必要です。繰越事由一覧や記入例、電子申請システムのテキストを参考に作成してください。